

# 生き生き消防団

## スーパー消防団

愛媛県八幡浜市

### 1 はじめに

八幡浜市は、愛媛県の南西部、佐田岬半島の基部に位置しています。平成17年3月に八幡浜市と西宇和郡保内町が合併し、人口約42,000人、132.98km<sup>2</sup>を有する新八幡浜市が誕生いたしました。

四国一の規模を誇る魚市場をもつ八幡浜港は、宇和海に面し、天然の良港として古くから栄えてきました。また、傾斜地には山頂近くまで柑橘園が広がっており、特に全国的に有名なブランドとして「日の丸」、「真穴」、「川上」など、

良質な柑橘類の産地でもあります。

明治時代には、海運による大阪との交易が盛んに行われ、また、紡績会社が興されるなど産業も盛んになり、四国で一番早く電燈が灯り、愛媛県下で最初の銀行が開業したことで有名です。

### 2 八幡浜市消防団

八幡浜市消防団は、合併時には、分団数15、団員数852名で組織されましたが、平成22年9月からは、現在の15分団、定員721名によ



消防職員より手動式油圧カッターの取扱い方法の指導を受ける消防団員



車輛を使い実践訓練に取り組む消防団員

る体制となっています。主な装備としては、司令広報車2台、ポンプ車15台、小型動力ポンプ34台、小型動力ポンプ積載車28台、資機材積載車1台、小型・軽量送水装置6台を有し、当市の防災活動にあたっています。

### 3 スーパー消防団の発足

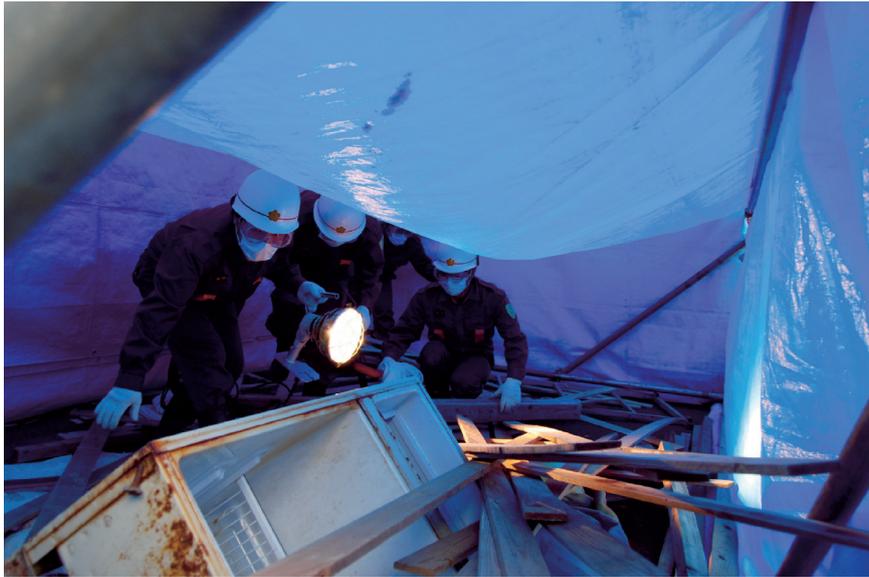
当市の地形は長いリアス式の海岸が続く平地の少ない地形となっており、幹線道路が1本しか通じていない集落が数多く点在しています。

その中でも、最も南に位置する地区には、消防車が駆けつけるまでに通常でも約20分が必要です。このため、万が一、地震や津波などで、その地区へ通じる主要な道路が寸断されれば、そこはまさに「陸の孤島」となってしまう恐れがあります。

これに対応するために、市では平成22年3月に総務省から貸与を受けた救助資機材搭載型車両をその地区に配備することとしました。この車両には、小型動力ポンプのほか、エンジンカ



車の下敷きになった要救助者の救出訓練に取り組む消防団員



要救助者の搬送訓練に取り組む消防団員

ッター、エンジンチェーンソー、手動式油圧カッター、ストライカー、AED等の数多くの資機材を積載しており、人命救助のための強力な装備として期待されています。しかし、同時にこれらの資機材を活用できる人員の確保が必要になります。

そのため八幡浜市消防団では、「特命救助部隊」通称「スーパー消防団」を平成23年5月21日に発足させ、今後、近い将来発生すると懸念されている東南海・南海地震等に対処する

と同時に数々の災害に対する救助体制の充実・強化を図ることとしました。

当市では、この特殊な救助資機材を団員が効果的に取り扱う事ができるよう、「特命救助部隊（スーパー消防団）」の発足を前に八幡浜地区消防本部の指導のもと、資機材の取扱い訓練を中心とした講習会を行いました。この講習会は30名の団員が受講しています。

講習会では、災害現場における安全管理、危険予知、多数傷病者への対応方法などの講義を



団長から任命書を受ける松野分団長



スーパー消防団のメンバー

受け、それぞれの資機材ごとに取扱い方法の指導を受けました。また、実際に救助資機材搭載型車両を使った想定訓練では、負傷者の頸部固定、各資機材を使用した車外救出訓練なども行なわれました。

#### 4 おわりに

スーパー消防団育成を目的としたこの講習を受けた消防団員達には、講習会終了後に終了証

が手渡され、市消防団長からの力強い激励がありました。各団員は「特命救助部隊（スーパー消防団）」としての使命に、熱い意欲を抱いています。

八幡浜市消防団は今後も定期的に訓練を重ね、スーパー消防団はもとより、全消防団員の活動レベルを引き上げ、地域住民が安心して暮らすことのできる安全な街を目指していきます。